

福知山市立学校教育内容充実推進プラン  
(令和3年度～令和7年度)

# 『響』プラン・F

## 【ひびきプラン・F】



**Develop the Ability  
of Children  
in Fukuchiyama plan**

～ 教育を尊ぶ気風の中で  
福知山の子ども**の可能性を伸ばす教育** ～

福知山市教育委員会

## 福知山市立学校教育内容充実推進プランの別称『響』プラン・Fについて

本市教育関係者の間で大切に語り継がれる「教育のまち福知山」という言葉は、昭和50年代のはじめ、本市教育委員会が展開した「こだま教育運動」の中で生まれました。この運動は、家庭、地域社会がそれぞれの役割・責任を自覚し、互いに高まり合おうとする心がこだまし合う教育づくりをめざしたもので、まさに共に響き合いながら子どもたちを育てていこうという運動「響育(共育)運動」といえるものでした。今もその精神は生きており、本市の教育目標「自分のために(自己実現)人のために(他者貢献)社会のために(社会貢献)共に幸せを生きる人材の育成」の中にも込められています。

そうした不易の想いを込め、「教育のまち福知山」という風土を生んだ「こだま教育運動(響育運動)」を想起させる『響』の一文字を採用し、ふるさと福知山の教育プランということで「F」を加え、福知山市立学校教育内容充実推進プランの別称を『響』プラン・Fとしました。さらに、「Develop the Ability of Children in Fukuchiyama plan ～教育を尊ぶ気風の中で福知山の子どもの可能性を伸ばす教育～」と意識ではありますが、ふるさと福知山で育つ子どもたち一人一人が自らの可能性をしっかりと伸ばし、新しい時代をたくましく生きていくことを心から願って、この副題を加えています。



# 福知山市立学校教育内容充実推進プラン（R3～7年）

## （目次）

はじめに 新「教育のまち 福知山」の構築に向けて

～福知山市立学校教育内容充実推進プラン（『響』プラン・F）の意義・・・ 1

第1部 「市立学校教育改革推進プログラム」の10年を振り返って・・・ 1

第2部 学校教育を取り巻く状況

1 学校教育をめぐる動向・・・ 2

2 福知山市の現状と社会状況・・・ 4

3 全国学力・学習状況調査と本市の子どもたちの学力状況・・・ 5

4 子どもたちを取り巻く状況・・・ 6

第3部 これからの目指す子ども像

1 福知山市の子どもに付けたい資質・能力・・・ 7

2 付けたい力を意識した子どもを育てる視点・・・ 8

第4部 『響』プラン・F ～教育内容のさらなる充実を目指して～

1 教育内容充実推進プランの5つの目標と8つの基本方針  
（本プランの3要素：普遍性・地域性・時代性）・・・ 14

2 シームレス学園構想の一層の充実（3タイプの学校形態を活かして）・・・ 15

（1）確かな学力の充実・向上・・・ 15

（2）子ども力を伸ばす生徒指導・・・ 16

（3）将来を見通したキャリア教育・・・ 17

3 心身ともに健やかな子どもの育成・・・ 17

（1）豊かな人間性と社会性を育てる教育・・・ 19

（2）健やかな体と安全を育てる教育・・・ 19

（3）社会の変化や現代的課題に対応する教育・・・ 20

（4）Society5.0社会に対応する情報教育（ICT活用教育）・・・ 20

4 特別支援教育の推進・・・ 21

5 就学前教育と小学校の連携

（認知能力・非認知能力の一体的な育成、保育所・幼稚園・認定こども園との連携）

・・・ 21

6	社会に開かれた教育課程の実現（地域とともにある学校づくり）	22
7	子どもの貧困、虐待問題への対応	23
8	大学との連携（福知山公立大学・京都工芸繊維大学）	23
9	魅力ある学校・園・学園づくりと教職員の資質能力の向上	24
10	教職員の働き方改革	24
11	小中一貫教育校制度（施設一体型） 三和学園・夜久野学園・大江学園	25
第5部	学校教育境の整備（安心・安全な学校施設の長寿命化・快適な環境整備・ICT活用、読書活動充実のための環境整備）	
1	小中学校施設長寿命化計画に基づく計画的な改修の実施	26
2	快適な環境整備の推進（学校環境のユニバーサル化）	26
3	ICT活用、読書活動充実のための基盤整備	26
関連資料		27



## はじめに

### 新「教育のまち 福知山」の構築に向けて

～ 福知山市立学校教育内容充実推進プラン（『響』プラン・F）の意義 ～

A I時代と呼ばれる人工知能による技術革新の波は、これからの世界、わが国の社会状況をこれまでとは、大きく違うものに様変わりさせ、専門的な知識や技能を必要としない労働は消失し、人としての労働は、創造的な「クリエイター」としての仕事のみにまとめられ収縮していくともいわれています。これからの時代を生きる子どもたちは、「正解のない問いに満ちた世界」をたくましく生きる力が求められます。さらに様々な価値観があふれる社会の中で互いに人権を尊重し多様な人々と共に生きる力が必要となります。

福知山市では、ここ10年にわたって本市の教育の方向を示してきた「市立学校教育改革推進プログラム」終了後の福知山の教育を考えるにあたり、新「教育のまち 福知山」の構築を掲げ、「子どもの将来を見据えて、教師が学びの場をつくり、子どもたちが主体となって学びあい、家庭や地域社会が学びを支え、市が学びを応援し、市の子どもは市が育て上げる。」という理念のもと、本市の教育目標である「自分のために 人のために 社会のために 共に幸せを生きる人材の育成」[教育によって学んだことを、自分の幸せや夢の実現のため(自己実現)に生かすだけでなく、人のために(他者貢献)、社会のために(社会貢献)活かそうとする志を持つ市民を育て上げる。]の具現化に向け、21世紀の社会を見据え新たな課題に対応できる期待される人材像を明確にした新たな教育計画「福知山市立学校教育内容充実推進プラン」を策定し、新たな教育の創造に取り組みます。

私たちは、すべての子どもたちには、必ずその子どもなりの「よさ」があると信じています。（人権尊重の精神）子どもたちに潜在する見えないもの（可能性）を見えるように伸ばす教育を推進します。『教育のまち福知山』（教育を尊ぶ気風のあるまち）にあって、福知山市の子どもたちが「自分のよさ」に磨きをかけ、その強みによって自己実現し、ふるさと福知山をはじめ、さまざまな世界で活躍（他者貢献・社会貢献）できる人材の育成を目指していきます。

福知山市教育委員会

## 第1部 「市立学校教育改革推進プログラム」の10年を振り返って

福知山市教育委員会では、義務教育の機会均等、教育水準の維持・向上を図り、子どもたちが「生きる力」をはぐくむことができる学校教育を保障するため、平成23年6月、福知山市立学校教育改革推進プログラムを策定し、教育内容の充実と市立学校の再編についての考え方を市民の皆様提示してまいりました。

社会の急速な変化や少子化が進む中で、今ある教育課題を検討するため、平成20年2月、福知山市学校教育審議会を設置し、「今後の福知山市学校教育のあり方に関すること」並びに

「市立学校の適正規模及び適正配置のあり方に関すること」について諮問しました。延べ18回にわたる審議を行い、「本市の少子化の進行等の状況から学校規模及び配置の適正化は避けることのできない問題であり、将来を見据えた適切な対応が必要である。」との答申を受け、本市教育委員会が策定したものが、「市立学校教育改革推進プログラム」でした。

平成23年度から平成27年度までを「前期計画」とし中間検証を行い、市審議会の視点を尊重して策定された本プログラムの「基本方針」を引き継ぎながらも、平成27年1月におよそ60年ぶりに文部科学省より示された「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」とも比較検討した上で、平成28年度から平成32年度までの5年間は、新たに「後期計画」を策定し、市民の皆様のご理解とご協力を得ながら時代の流れや社会の急速な変化に対応すべく、学校の再編と新しい教育の実現をめざしてきました。

この10年にわたる「市立学校教育改革推進プログラム」は、本市の掲げる「シームレス学園構想(保幼小中一貫・連携教育)」の両輪として「教育内容の充実」と「学校の適正規模・適正配置」という二つの施策をその中心に推進されました。その結果、夜久野小・中一貫教育校(夜久野学園)を皮切りに三和小・中一貫教育校(三和学園)、大江小・中一貫教育校(大江学園 ※R3年開校予定)と三つの施設一体型小・中一貫教育校、六人部中学校区、川口中学校区では、一小一中施設分離型の学園、その他の中学校区(桃映・南陵・成和・日新)は、複数小一中施設分離型学園という3タイプの学校(ブロック=学園)形態に集約され、学校の再編は、完了することとなりました。これにより、学校の小規模化による課題であった、複式・複複式学級の解消も達成することができました。特に、子どもたちの成長にとって望ましいと考える一定規模の集団の中で子ども同士が切磋琢磨し練りあったり、深め合ったりといった「学びあい」の機会をすべての子どもたちに提供できるようになったことは、大きな成果と考えています。さらに、各中学校区(ブロック=学園)の連携した教育を充実させること(目指す子ども像の共通化・園校種間をつなぐ取組、指導の工夫)で様々な教育効果も高めてきました。このことから「市立学校教育改革推進プログラム」は、すべての子どもたちに多様な経験を積むための環境整備、基盤整備(ハード面)としての役割は、おおむね達成したといえます。

しかしまだまだ、課題は、山積みであり、教育内容(ソフト面)を中心とした新たな計画の策定が必要不可欠となります。そこで次期計画は、10年間で達成を目指した「市立学校教育改革推進プログラム」から5年間ごとに検証する「福知山市立学校教育内容充実推進プラン」へと計画の質的転換を図っていかねばならないと考えています。

## 第2部 学校教育を取り巻く状況

### 1 学校教育をめぐる動向

平成31年4月、当時の文部科学大臣より中央教育審議会に「新しい時代の初等中等教育の在り方について」が諮問され、同審議会において新時代に対応した義務教育および高等学校教育の在り方や増加する外国人児童生徒等への教育の在り方、これから

の時代に応じた教師の在り方や教育環境の整備等についての審議が行われました。

現在、日本の教育の状況は、15歳の子どもの学力水準が世界のトップレベルを維持するとともに、学力の底上げにより成績上位層と成績下位層との平均正答率の差が縮小する等、現状では一定の成果を上げていているといえます。しかし、児童生徒の語彙力・読解力については課題が指摘されており、さらに高等学校段階になると学習時間の減少や学習意欲の希薄化、大学受験に最低限必要な科目以外を真剣に学ぶ動機の低下がみられるなどの課題があります。

令和2年度から新たな学習指導要領の完全実施がスタートし、まず小学校、続いて令和3年度から中学校、令和4年度から高等学校での実施となります。新学習指導要領の主目的は、(1)生きて働く知恵・技能の習得 (2)思考力・判断力・表現力等の育成 (3)学びに向かう力・人間性等の涵養 の3本柱であり、これに沿って「主体的・対話的で深い学び」の推進による学びのプロセスの改善や外国語教育の抜本的強化、プログラミング教育の充実など、新たな時代に必要となる資質・能力を踏まえた学びの中身の見直しを進めます。また、実社会との関わりから問いを見出し解決していく力を育成するための「総合的な探究の時間」(高等学校)も設けるとしています。

一方で、学校における働き方改革については、小学校教員の3分の1、中学校教員の3分の2が過労死ラインの勤務時間まで働いており、なおかつ10年前と比べて勤務時間が増加しています。そうした状況を受けて、文部科学省は、1年単位の変形時間制の導入と、1年間の超過勤務時間が360時間を超えてはいけないとした勤務時間上限ガイドラインに法的根拠を与える条項を教職員給与特別措置法改正案に盛り込み国会に提出可決されました。

また、先端技術を活用した教育の推進については、文部科学省の令和2年度予算概算要求で「GIGAスクール構想」を打ち出し、児童生徒1人1台のタブレット端末PCと高速・大容量ネットワークの整備を強力に推進し、デジタル教科書、AIドリルや遠隔・オンライン教育等の先端技術を学校教育に導入することで「学びの個別最適化」を目指しています。

さらに、令和元年12月以降に広まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、我が国においても感染拡大防止のために小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業措置がとられるという事態が発生するなど、学校教育を含む社会の状況が一変してしまいました。学校再開後も「3密」を避ける等の様々な感性防止の対策と共に『ウィズ(with)コロナ』に代表される新型コロナウイルスの感染の危険性が続く状況の中で「新しい生活様式」と第2波、第3波への備えの実践化が求められるようになり、在宅学習を念頭に早期の「児童生徒1人1台のタブレット端末PC」の実現に向け、「GIGAスクール構想」の前倒しが決定され、全国で急速なICT環境整備が進められています。

京都府においては、令和元年10月に策定した京都府総合計画(京都夢実現プラン)の

基本計画「② 夢を実現する教育」の中で20年後に実現したい姿として以下の4つの京都の教育の到達点を示しています。

○「包み込まれているという感覚」が実感できる教育

すべての子どもが「未来を展望し」、「人や社会とつながり」、「挑戦し続ける」意欲を高めることができるよう、周囲から「包み込まれているという感覚」を実感でき、安心して受けたい教育を受けられる環境が実現しています。

○人権を基盤として次代の京都を支える人材が育成される教育

人を思いやり、人権を基盤として共に助け合い、高い志とグローバルな視野を持ち、次代の京都を支える人材が育成されています。

○超スマート社会において新たな価値が想像できる教育

超スマート社会が到来し、IoTで人とモノがつながり様々な知識や情報が共有される未来社会において、情報活用能力を基盤として、多様な他者と協働しながら新たな価値を創造する能力をはぐくむ教育が実現しています。

○京都の文化力を生かした教育

地域のつながりや伝統・芸術などの京都の文化力を生かした豊かな感性をはぐくむ教育が実現しています。

新時代の到来を見据えた新しい学びを創造し、伝統文化学習など京都ならではの教育を推進していくことを今後の教育の方向性としています。

## 2 福知山市の現状と社会状況

平成30年版福知山市統計書によると、本市の人口の推移は、平成18年の市町村合併により81,000人を超えた人口から年々減少をたどり、平成30年には、78,000人(平成27年の国勢調査を基礎とした推計人口)を割り込むまで減少しています。

また、本市の平成26年以降の年ごとの出生数は700人台前半を推移しており、15歳未満の人口とその割合は、平成2年は、約12,800人で全体の19.2%でしたが、平成30年では、約10,600人で市全体の人口に占める割合は13.5%にまで減少しています。一方、65歳以上の人口とその割合は、平成2年は、1万人弱で14.9%でしたが、平成30年には、2万3千人を超え市全体の人口に占める割合は29.4%まで増加しています。このことから福知山市でも人口の減少と少子高齢化の問題は、さらに急速に進んでいるといえます。特に市の周辺部では、少子高齢化と過疎化に伴って学校の小規模化が進み、複式学級の設置を余儀なくされていましたが、平成23年度からスタートした福知山市市立学校教育改革推進プログラムによって学校再編を進めたことにより、令和3年度に市内すべての複式学級が解消される見通しとなっています。

社会に目を向けると、情報技術は、IT(情報技術)からICT(情報通信技術)へと変化し、一方的に情報を伝えるだけでなく、双方向へ情報受発信するための技術へと進化してきています。さらにコロナ禍の影響により、本市においても小中学校の臨

時休業措置による在宅学習に対応できる遠隔授業等の早期の実現が求められるようになり、ICT 環境整備と ICT 利活用教育の推進を急速に進めなければならない状況となっています。その中で、インターネットなどの利用頻度が増大し、あふれる情報の中で個人が正しい情報を見極めることなど、一人一人の情報モラルのあり方が問われていきます。子どもたちの生活においては、SNSなどによる有害情報の氾濫やネットいじめなど様々な問題も懸念されます。また、メールやチャットなどのコミュニケーションツールの広がりには利便性があり、コロナ禍の状況下にあつて、有効なコミュニケーションの手段である一方で、人とお互いの顔と顔を合わせて会話によってつながる機会が失われ、人間関係の希薄化や変質化、言葉の力の育成などにも大きな影響を及ぼしていくことが予想されます。

また、子どもの貧困も大きな問題となっています。保護者の収入の格差による貧困家庭の子どもたちには、長期的な展望を持って自らの学習や生活を考えることができにくい傾向がみられます。貧困は、家庭の教育力を弱め、子どもとその家庭から「未来に投資する」という長期的展望を奪い、日々の生活のみに埋没させる状況をつくり出しています。こうした状況は、子どもの本来持っている学ぶ意欲を低下させることにもつながりかねず、教育の機会均等の面から大きな課題となる可能性があります。

このような少子高齢化、急速な情報化、経済格差の増大など、社会状況や家庭状況が大きく変化する中、公教育においてすべての子どもたちに、基礎基本となる学力の定着や学ぶ意欲の向上、時代の変化に適応した教育を本市においても推進し、一人一人の子どもたちが持つ可能性を広げ、夢を実現できる力を育てることが重要です。また、どのような状況下においても、多様な体験を通して周りの人々とつながり、自尊感情を高め、幅広いコミュニケーション能力を育成することも求められています。

### 3 全国学力・学習状況調査と本市の子どもたちの学力状況

令和元年度の「全国学力・学習状況調査」の京都府の全国順位は、小学校6年生が10位、中学校3年生が13位で、近畿圏の中では、高い順位でした。その中に、福知山市を当てはめると、小学校は、15位、中学校は、24位の位置になります。10年ほど前と比較すると、様々な環境の変化が影響しているとはいえ、危機感を感じざるを得ない状況です。

令和元年度の小学6年生においては、国語、算数共に平均正答率が全国平均を上回っています。中学3年生においては、数学は、平均正答率が全国平均をわずかに上回っていますが、国語、英語については、平均正答率が全国平均をやや下回る結果となっています。

過去5年間の結果から分析すると、点数だけで単純に比較することはできませんが、平成27～30年度では、A問題（基礎基本）に比べB問題（活用）は、10パーセント以上も低く、以前から活用力に課題がありましたが、一体型になった令和元年度も改

善していない現状が浮き彫りになっています。

本市の児童生徒の具体的な学力状況として特徴的なことは、本調査の小学6年生では、数値的には、全国平均を上回っているものの、活用問題になるとプラス幅が下降気味になってしまうこと。教科を問わず中学校1年生で一旦学力が落ち込む現象が顕著であること。中学校3年生では、全国平均を下回っているものの、マイナス幅が上向きになってきていること。などが挙げられます。

教科ごとに見ると国語では、学力中下位層、下位層が小学校6年生から中学校3年生で大幅に増加しており、国語科の課題は大きいといえます。簡潔にまとめて書くことや考えの根拠を明確に書くことなど「書くこと」に課題があることがわかりました。授業の中で「書くこと」の作業は多いと思われそうですが、その書かせ方の具体的な指導の質が問われています。算数・数学では、中下位層、下位層が小学校6年生から中学校3年生で減少し伸びが見られます。しかし、複数のデータを読み取り、筋道を立てて考えた経過を記述する問題は低調です。同じ計算問題でも、文章題になると計算の知識をうまく使えない傾向が見られます。図・表・グラフ・式等、様々な資料に加え、長文の問題文とその中に解答のひな型となるヒントが入っていたり、問題を解く上で必要の無い情報が入っていたりする中で、本当に必要となる資料や内容を見付け出す能力や高度な読解力も問われています。英語については、中下位層の全体に占める割合が多い状況です。自分の意見を基に文章を書く問題は、最も正答率が低く、0.8パーセントでした。記述式問題の課題が大きく「書く」「話す」ことの弱さが顕著となりました。まとまりのある作文を書く問題では、正答率が極端に低かったのは、文法や単語の学習に重点が置かれがちで、きまった正解が無い問いに答えることに生徒が慣れていない傾向があるのではないかと考えられます。「読む」技能については、まとまりのある文章を一気に読ませて、要点や概要を把握させる指導が求められます。

#### 4 子どもたちを取り巻く状況

本市の小・中学校では、令和元年10月1日現在で要保護世帯と準要保護世帯をあわせた保護世帯率は、15.2%となっており、6世帯のうち1世帯は援助家庭ということになり、子どもの貧困化が懸念される状況です。国レベルでは平成27年度の子どもの貧困率は13.9%、子どもの7人に1人が平均的な所得の半分を下回る額の世帯で暮らしていることとなります。とりわけ、ひとり親世帯の貧困率は50.8%にものぼり、極めて厳しい結果となっています。

全国的な子どもたちの心と体の発達の面に目を向けると、まず、体の面では、文科省の学校衛生統計及び文部科学省の学校保健統計調査によると、身長や体重の平均値で、学校衛生統計が始まった昭和23年度の男女の平均値と平成30年度の男女の平均値を比較すると、およそ2歳程度の身体的な発達の早期化が見られます。また、女子の平均初潮年齢についても同様の傾向がみられ、心の面においても思春期の到来時期

が早まっているのではないかとの指摘もあります。

また、令和元年度の「全国学力・学習状況調査」質問紙によると「学校の楽しさ」、「教科や活動の時間の好き嫌い」について小学校4年生から5年生に上がる段階においても肯定的回答をする児童の割合が下がる傾向があることや、「自分が周りの人(家族や友達)から認められていると思いますか」という自尊感情に関わる質問に対し、小学校高学年から急に否定的な回答が多くなるといった傾向もあります。

この時期の児童生徒は、成長の個人差も大きいですが、小学校4～5年生頃に児童生徒にとっての発達上の段差が存在しているとの指摘や、いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる現象の芽は既に小学校高学年から生じているとの分析もあります。

このため、興味関心や個性への対応の重視、指導の専門性の強化といった、従来であれば中学校段階の指導の特質とされてきたものを、一定程度小学校段階に導入する取組として、さらにこうした児童生徒の様々な成長の段差に適切に対応する等の観点から現行の6－3制の下で新たな学年段階の区切りを設け、区切りごとに指導の重点を定めて一貫した教育を実施することの有効性が指摘されています。まさに、本市が推進するシームレス学園構想(保幼小中一貫・連携教育)が、時代的・社会的ニーズに合致した施策であるといえます。

また、文部科学省の児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(平成30年)によると、問題行動件数の減少と不登校の増加があげられます。

特に顕著な特徴として、中学校における暴力行為の生徒数が減少しているなか、小学校での暴力行為の児童数は、増加しています。暴力事象の低年齢化がみられます。

また、小中学校共に不登校児童生徒の数は増加し、特に小学校高学年からの不登校の状況を中学校まで引きずってしまう傾向がみられます。

このように、本市の子どもたちにとって、学ぶ意欲や自尊感情、人とうまく関わる能力、感情をコントロールする力等の非認知能力は、将来の社会的自立に向け、はぐくまなければならない大切な能力であり、その欠如は大きな課題であるといえます。さらに、各種調査から見えてくる子どもたちの基本的な生活習慣や態度が身に付いていない、耐性や規範意識が十分に育っていない等の課題は、本市の子どもたちにとっても例外ではなく、子どもたちの身体的、精神的な発達に応じたより適切な教育が今後さらに必要になってくるといえます。

## 第3部 これからの目指す子ども像

### 1 福知山市の子どもに付けたい資質・能力

本市のすべての子どもたちが互いの人権を尊重し、自らの可能性を自認し努力することで、変化の激しい社会の中で自立して生きていくとともに、主体的に社会とかわり、自らだけでなく他者にも貢献し、さらには、社会を発展させていくために必要な資質や能力をその発達段階に応じて適切に身に付けた子どもの姿を理想として掲げ

ます。

前計画である「市立学校教育改革推進プログラム」で示した『めざす子ども像』を引き継ぎながら、自他を尊重し互いに知恵を出し合っただけで困難な課題を解決していく力を育成するために、新たな身に付けてほしい6つの資質・能力として再構築しました。

## めざす子ども像【身に付けてほしい6つの資質・能力】

### ① **ふ** るさを愛する子《郷土愛》

郷土福知山の文化・伝統を大切にすると共に多様性を尊重し、他の地域と積極的に関わろうとする心 [地域性]

### ② **く** ふうする子《自立・創意工夫》

自分で課題を見付け、もっとよい方法がないかと工夫する力 [時代性]

### ③ **ち** えをみがく子《探究》

物事を深く考え真理を追究し新しいものを生み出そうとする態度 [時代性]

### ④ **や** さしさと思いやりのある子《思いやり・貢献》

自分も友達も大切にでき、相手や社会のために行動できる力 [普遍性]

### ⑤ **ま** じめにみんな のためにがんばる子《協働・継続》

みんなのために努力し働ける粘り強さ [普遍性]

### ⑥ **こころ** ざしをもって努力する子《希望・展望》

夢や志を持って自らの目標に向かって進む力 [普遍性]

## 2 付けたい力を意識した子どもを育てる視点

本市が目指す理想とする子どもの姿を実現するためには、基礎的・基本的知識・技能を確実に習得させ、それを活用して新たな課題に取り組む力を育成しなくてはなりません。そのためには、日常の子どもたちの行動について、付けたい力を意識した視点によるアプローチが必要となってきます。特に近年、その重要性が指摘されている「非認知能力」(テストや試験では、測ることのできない生きていくために必要な力)で付けたい力の以下3点については、具体的な個々の資質や能力を獲得するために必要不可欠な基盤となる力と位置付けています。

### ◇ 付けたい力(見えない力)をみる : 非認知能力の重視)

- ① 目標に向かって努力する力
- ② 人とうまく関わる力
- ③ 感情をコントロールする力

## 【発達段階別：身に付けたい具体的な資質・能力】

### 1 一人でできる

- ① 自分のよさ（好きなこと・やりたいこと・持ち味・長所・得意・強み）を知り伸ばす。
- ② 自分なりの意見を持ち、表現できる。
- ③ 自分で考え正しく判断する。

### 2 みんなとできる

- ① 友達のよさ（持ち味・長所・得意・強み）に気付ける。
- ② 互いを尊重し、協力・協働できる。
- ③ 話し合い、より良いものに集約できる。

### 3 深く考える

- ① 選択肢を考え、比較し選ぶことができる。
- ② 自分の考えやグループの考えを多角的に考察し整理しまとめることができる。
- ③ 根拠を見付け、判断に生かしたり、説明したりできる。

### 4 目標に向かって頑張る(可能性を伸ばす)

- ① 目標を立て努力することができる。
- ② できること得意なことを増やし伸ばすことができる。

### 5 挑戦し粘り強く取り組む

- ① 困難なことにも挑戦することができる。
- ② あきらめず最後までやりきることができる。

◇ 実現したい具体的な姿

## 幼 児 期

### (学びの基礎期 ◆ 体験しながら学ぶ)

#### ● 学びに向かう力

- ・遊びや生活を通して、豊かな心情・意欲・態度を身に付ける。
- ・生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現に触れ、これらを使う楽しさを味わう。
- ・新しいことに気付いたり発見したり、試したりする楽しさを味わう。

#### ● 豊かな心

- ・道徳性や社会性の芽生えとなる遊びなどを通じた体験活動を行う。
- ・自分とは異なる考えをもつ他者に興味をもち、互いに関わる経験をする中で相手意識を培う。

#### ● 健やかな身体

- ・遊びや生活を通して、健康的な生活リズムや基本的な生活習慣を獲得する。
- ・基礎的な動きを身に付け、表現力につなげる。
- ・食べる喜びや楽しさ、様々な食べ物への興味・関心をもつ。
- ・様々な危険や災害について知る。

#### ● 家庭・地域とのつながり

- ・家族・身近な人々と触れ合い、人への信頼をもつ。
- ・身近な環境に積極的に関わり、全身で感じることにつながる体験をする。
- ・家族と共に、地域行事に参加しようとする。
- ・挨拶を通して人とのつながりを深める。

# 小 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4

## (基礎充実期 ・ ・ 学び方を身に付ける)

### ●質の高い学力

- ・分かる喜びやできる喜びを味わい、進んで学習する。
- ・自分の考えを持ち、聞き、伝え合う。
- ・思いや考えを伝え合う。
- ・学びの基礎（読み・書き・計算）学習規律、家庭学習を身に付ける。
- ・ICTに慣れ、操作する。

### ●豊かな心

- ・きまりや意味が分かり、守ろうとする。
- ・自分や友達のよさが分かり、違いを認め、進んで関わろうとする。
- ・協力して学習や活動を最後までやる。
- ・多様な体験に進んで取り組もうとする。

### ●健やかな身体

- ・基本的な生活習慣を身に付ける。
- ・基礎的な体力と運動技能を身に付ける。
- ・食事の大切さを知り、好き嫌いなく進んで食べる。
- ・災害時に、自身を守るために必要なことを知る

### ●家庭・地域社会とのつながり

- ・地域の自然や人に親しみ、感謝の心をもつ。
- ・積極的に地域行事に参加しようとする。
- ・社会のきまりを知り、守ろうとする。

# 小5・6・中1

## (展開期・・・共に学ぶ)

### ●質の高い学力

- ・相手や目的に応じて話したり、聞いたりする。
- ・基礎を活用して問題解決しようとする。
- ・思いや考えを伝え合い、共に学び合う。
- ・授業につながる家庭学習の習慣を身に付ける。
- ・ICTを理解し、問題解決を図るツールとして活用する。

### ●豊かな心

- ・規範意識を共に高めようとする。
- ・人との関わりの中で、自分のよさに気づき、そのよさを発揮する。
- ・相手を大切にし、他者との良好な人間関係を築く。
- ・体験を通して、自分の役割・責任を自覚する。

### ●健やかな身体

- ・自律した生活を送る。
- ・体力・運動能力を高める。
- ・様々な運動を体験する。
- ・自分に必要な食事の内容や量を理解して食べる。
- ・災害時に、自分や身の回りの人を守るために必要なことを考えることができる。

### ●家庭・地域社会とのつながり

- ・自分と地域のつながりを自覚しボランティア活動に参加しようとする。
- ・法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たそうとする。

## 中 2 ・ 3

### (発展期・・・自分を磨き夢を広げる)

#### ●質の高い学力

- ・ 問題解決能力を身に付けると共に自らの希望進路を切り拓く。
- ・ 社会に目を向け、将来の夢に向かって学ぼうとする。
- ・ 主体的・対話的で深い学びを通して探究的な学習をする力を身に付ける。
- ・ 生涯にわたって学び続ける基盤としての家庭学習を身に付ける。
- ・ ICTを効果的に活用し、自身の可能性を広げる。

#### ●豊かな心

- ・ 規範意識を高め、自己指導能力を身に付ける。
- ・ 人間としての生き方を踏まえ、自己を見つめ、向上を図る。
- ・ 自他の尊重、多様性の尊重、他者への思いやりの心を育てる。

#### ●健やかな身体

- ・ 主体的に生活リズムを整える。
- ・ 思春期特有の課題を解決する力を育てる。
- ・ 培った体力・知識・技能を生涯スポーツにつなげる。
- ・ 自分の食生活を見直し、食を通して健康管理をする。
- ・ 災害時の社会参加や社会貢献について意識を高める

#### ●家庭・地域社会とのつながり

- ・ 郷土を愛し、人々の思いや願いに応えようとする。
- ・ 文化・伝統行事に参加し、地域の一員としての自覚を育てる。
- ・ 法やルールを守り、社会の一員としての自覚を育てる。

## 第4部 『響』プラン・F ～教育内容のさらなる充実を目指して～

ふるさと福知山を愛する「郷土愛」に包まれ、不易の価値である「人権尊重」を基盤として「時代の要請」に応える教育を推進していきます。

「市立学校教育改革推進プログラム」によって、本市の教育の方向を示し、「シームレス学園構想（保幼小中一貫・連携教育）」の具現化に向け取り組んだこの10年間で、「学校の適正規模・適正配置」については、大きく前進し、このプログラムの環境整備、基盤整備（ハード面）としての役割は、ほぼ終わることができました。しかし、「教育内容の充実」については、まだまだ、さまざまな教育課題が山積みであり、これからの本市の教育を考え方向を示すためには、教育内容（ソフト面）を中心とした新たな計画が必要となります。変化の激しい時代に対応するため、5年周期で検証する「福知山市立学校教育内容充実推進プラン」として新たな計画を策定し、教育内容のさらなる充実に取り組んでいきます。

また、本プランでは、これからの時代をたくましく生きる人材を育成するためには、一人一人の子どもが「自分のよさ」を見付け、それを自らの可能性として自覚し、その特性を伸ばす環境の中で「知」「徳」「体」をバランスよく育み、自ら学び考え行動できる力を培わなくてはならないと考えています。そのためには、「普遍性・地域性・時代性」の3要素を意識した教育内容を充実させることが求められます。

### 1 教育内容充実推進プランの5つの目標と8つの基本方針

（本プランの3要素：普遍性・地域性・時代性）

#### ◆目標1 子どもの力を向上させます

- 方針1 夢と志をもち、可能性に挑戦するために必要になる力を育成します。[普遍性][時代性]
- 方針2 郷土愛をもち、地域や社会の持続的な発展に寄与し、牽引するための多様な力を育成します。[地域性]
- 方針3 子ども一人一人を大切にし、様々な体験や経験を重視しながら、学習意欲やよいところ、その能力を引き出し、それぞれの可能性を伸ばす指導を徹底します。[普遍性][時代性]

#### ◆目標2 学校・教職員の力を向上させます

- 方針4 誇りや使命感をもち、子ども、保護者、地域から信頼される教職員を目指します。[普遍性]
- 方針5 教職員全体のマネジメント能力の向上により学校の『チーム力』を高めます。[時代性]

#### ◆目標3 開かれた学校をつくります

- 方針6 地域との連携を深め、保護者や多様な地域人材の支援・協働により、地域参画型の多様な学校を目指します。[地域性]

**◆目標4 連携により家庭、地域の教育力を高めます**

- 方針7 家庭・地域・学校が連携・協働し、それぞれの役割と責任を再確認するとともに、その役割を果たすことで、子どもの成長を支えます。[地域性][時代性]

**◆目標5 現場に近いところで支援・指導を行う教育行政にします**

- 方針8 『現場主義』で保護者・地域の期待に応えられる教育行政の実現に取り組みます。[地域性]

## 2 シームレス学園構想の一層の充実（3タイプの学校形態を生かして）

### 3タイプの学校形態

#### →施設一体型（夜久野・三和・大江）

施設一体型の強み(9年間の成長を全職員で確認することができる)を生かし、日常的に小中学校の教師が連携し児童生徒を見守ること、小学校における教科担任制を取り入れて教科指導を充実させることなど、特色のある小中一貫・連携教育を行います。

#### →1小1中分離型（六人部・川口）

中学校ブロックで近隣に位置する1小学校と1中学校の強み(連携のしやすさ)を生かし、小中学校の教師の兼務発令によって、教科指導を中心に、より緊密な連携による小中一貫・連携教育を行います。

#### →複数小1中分離型（桃映・南陵・成和・日新）

中学校ブロックで複数の小学校と1中学校の連携のもと、小小連携、小中連携を充実させ、集団の大きさを生かしながら、小学校から中学校へのスムーズな移行を大切にした小中一貫・連携教育を行います。

### (1) 確かな学力の充実・向上

子どもたち一人一人に確かな学力を身に付けさせ、それぞれの希望する進路実現にむけ、主体的で対話的かつ深い学びのある授業をめざし、授業改善と指導の工夫に取り組めます。また、その中で思考力や感受性を支える「言葉の力」の育成にも力を入れると共に、家庭との連携を強化し家庭学習（自学自習）の習慣化に向け継続して支援していきます。さらに、学校のICT環境整備に対応し、ICTを活用した学習活動を積極的に研究・導入し、新しい学びを実現します。

特に「福知山ならではの教育」を目指し、『授業づくりは人づくり』のコンセプトの

もと、すべての教育活動を整理統合し「授業づくり」に焦点化して取り組みます。その中で指導の一貫性や系統性・関連性を明確にしながらか指導の効果性や有効性（子どもの可能性を伸ばす指導力）を高めます。具体的には、「学校教育の重点・福知山授業づくりメソッド」※別紙参照により「福知山授業スタンダード」として全市的に授業の基本スタイルを示します。そうすることで経験年数に係わらず授業の基本ベースをそろえた上でそれぞれが創意工夫のある授業づくりに取り組むことができるというわけです。時代がどのように変化しようとも、学校教育の基本は「授業」であり、授業の質を下げないことが教育の質を維持することにつながります。さらにその上に新たな時代性や創意工夫を積み上げることは、教育の質を向上させると考えます。

### 【授業改善の5つの視点】

#### ① 基本的な授業のベースづくり

全市的に授業の基本スタイルを示し共通化を図る。付けたい力を明確にした「めあて」から「振り返り」までの一貫した指導形態

#### ② 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

#### ③ 対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、経験や知恵を手掛かりに考えること等を通じ自己の考えを広げ深める。

#### ④ 深い学び

習得・活用・探究という過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

#### ⑤ ICTの効果的な活用

◇学習指導の準備と評価のための教師によるICT活用

◇授業での教師によるICT活用

◇児童生徒によるICT活用

授業の中での効果的なICT活用のねらいとしては、(1)学習に対する児童生徒の興味・関心を高めること、(2)児童生徒一人一人に課題を明確につかませること、(3)わかりやすく説明したり児童生徒の思考や理解を深めたりすること、(4)学習内容をまとめる際に児童生徒の知識の定着を図ることの4点

## (2) 子どもの力を伸ばす生徒指導

なりたい自分をイメージし自分をよりよい方向に導く「自己指導力」を意識すると共に、所属感を持って仲間と共に成長できる環境づくりを大切にする生徒指導を推進

します。特に「授業づくり」につながる学級活動、異年齢集団による活動の機会が多い特別活動、社会につながるボランティア体験活動を重点機会と捉え、先行アプローチする生徒指導を展開します。

### 《 自己形成：自己指導力と規範意識を育てる指導の推進 》

- 人との関わりやつながりを体験的に学ぶことを通して、人への思いやり、命を大切に  
する心や実践力、コミュニケーション能力の育成の重視（小中の異年齢活動、園児  
や幼児・高齢者・障害のある人・地域・事業所などとの多様な交流活動の推進）
- 地域とともにある学校づくりのため学校運営協議会制度を活用したコミュニティ・  
スクールの導入促進
- 法やルールに関する教育の推進
- 組織的な教育相談活動など校内指導体制の充実と適応指導教室「けやき広場」等関係  
機関との連携による不登校の未然防止に向けた積極的な取組の推進
- いじめ・暴力行為の未然防止のための日常的な児童生徒への声かけや学級経営の工  
夫改善、情報の共有と迅速で組織的な対応、警察等の関係機関・家庭や地域社会と  
の連携（非行防止教室・薬物乱用防止教室・ネットトラブル防止教室）による防止、  
解決に向けた取組の推進

### （3） 将来を見通したキャリア教育

一人一人の子どもが「自分のよさ」（持ち味・長所・得意・強み）を見付け、自らの能力・可能性として自覚し、その特性を伸ばすことによって、夢や将来を実現可能なものにしていくというプロセスを全市的に意識してキャリア教育や進路指導を推進し、それぞれの希望進路の実現（進路保障）に向けさらに取り組みます。

- 子どもたち一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を  
育てることを通して、キャリア発達（※社会の中で自分の役割を果たしながら、自分  
らしい生き方を実現していく過程）を促進
- 望ましい職業観や勤労観を身に付けさせ、社会人としての基礎的資質・能力を育成
- キャリアパスポート（小学校から高等学校を通じて児童生徒が学校、家庭及び地域社  
会において学んだことを振り返り、新たな学習や生活の意欲につなげたり、将来の  
生き方を考えたりする活動をする際にその学びを記録蓄積する教材）の有効活用

### 3 心身ともに健やかな子どもの育成（人権教育・いじめ防止・不登校の克服・食育・防災教育・道徳教育・ICT活用教育・プログラミング教育）

「自分の命を大切にすると共に生命を尊重する心や他者を思いやる心等、基本的人権の尊重を基盤とする一人一人を大切にした教育を進めること」を本市の学校教育の重点としています。特に人権教育については、すべての教育活動の基盤と位置付け、すべての学校で推進します。

いじめ防止については、「いじめ防止対策推進法」の趣旨に基づき、本市いじめ防止基本方針、各校におけるいじめ防止基本方針に従い、家庭・地域・学校・関係機関が連携のもと、子どもたちが生き生きとして、すべての子どもに居場所のある学級・学校づくりを推進していきます。また、いじめの早期発見・早期対応といじめの根絶に向けた各種取組を推進していきます。さらに、不登校児童生徒等の自立に向けた対応に向け、本人やその保護者の様々な悩みに応じる教育相談を実施するためにスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、まなび・生活アドバイザー、相談員の増員と質の向上による教育相談体制の充実や要保護児童対策地域協議会との連携等の取組も推進していきます。

特に、防災教育については、さまざまな災害に対する備えを考えさせると共に体験的な防災学習や避難訓練等を通じて「みんなでできる防災」や「自他の命を守る方法」といった防災上必要な知識や実践力を身に付けさせます。

ICTを有効活用する力や「プログラミング的思考」を育成するための新しい教育を積極的に推進します。

自然体験や異年齢、地域社会との交流活動を積極的に推進すると共に、その活動を通して道徳性の育成を図ります。

文化・芸術やスポーツのすばらしさを体感する機会の充実（豊かな心の育成と体力・運動能力の向上）、自らの健康を考えた食習慣を身に付けるための教育を推進します。

コロナウイルス感染予防等に対する正しい知識を指導し、積極的な予防意識と態度を培うと共に「新しい生活様式」を身に付けるための教育を推進します。

- 自他を尊重し主体的に行動・実践する力の育成  
（一人一人を大切にすると人権教育の推進）
- 心身の健康保持増進と安全で衛生的な生活環境づくりを推進するための保健学習と保健指導の充実（薬物乱用防止教室・くすり教育）
- いじめ防止や不登校の克服にむけた積極的な取組  
（市いじめ防止基本方針・道徳の活用・ネットトラブル防止教室）
- さまざまな災害に対して自他の命を守るための対応について学び実践する力の育成  
（防災教育の充実：防災教育カリキュラムの作成・防災教育パンフレットも活用）
- 市内公立小中学校における完全給食の安定した実施及び家庭や地域社会と連携した食育の推進
- 「GIGAスクール構想」の実現と「福知山ならではの」の情報教育の研究推進とシステムづくり（ラーニングイノベーション・プロジェクト、福知山公立大学情報学部との共同研究【ラーニングアナリティクス・学習分析】）
- コロナウイルス感染予防等に関わる取組の実践とコロナ禍における新しい生活様式を身に付けるための教育の推進

## (1) 豊かな人間性と社会性を育てる教育

子どもたちが、自らを律しつつ、自己を確立し、他人を思いやる心や感動する心を持つ豊かな人間性を備えた人として育ち、自分らしく家庭や地域、社会の一員としての自覚を持って主体的に生きくために必要な力を培う教育を推進します。

- 道徳教育推進教師を中心とした校内体制の充実と道徳の時間(「特別の教科道徳」)を要とし、教育活動全体を通じた適切な指導と評価
- 児童生徒の心に響く、豊かな体験活動を生かした多様な指導
- 郷土の自然、歴史、先人などに関する体験的な学習の重視と郷土及び我が国の文化や伝統を尊重し、地域の将来を担う人材の育成
- きめ細かな幼児・児童・生徒の生活実態の把握や内面理解のもと、生命や人権の尊重を基盤とした判断力と実践力の育成
- 自他を尊重し、あらゆる差別を解消するために主体的に行動・実践する児童生徒を育成するための人権教育の推進
- 同和教育の成果と手法への評価を踏まえた継承と活用による教職員の人権意識の高揚(あらゆる人権問題についての研修による人材育成)
- 目的を持たせ、自ら学校生活を充実しようとする積極的な生徒指導の推進
- 学校・園生活全体を通して、集団生活や社会のきまりを守ることの大切さなど所属間や規範意識の醸成

## (2) 健やかな体を育て安全意識を高める教育

健康や体力は、「生きる力」の根源となるもので生涯にわたって、いきいきと生きるために必要不可欠なものであるにもかかわらず、最近の子どもの体力低下には、危機感を持たざるを得ません。そうした状況を改善するめに、児童生徒の体力の状況を把握し、教育活動全体の中で、体力向上につながる活動を充実させます。また、震災をはじめとする様々な災害等の教訓を生かし、自他の命を守るために安全に関わる対応能力を身に付けるため防災教育を推進します。

- 2021年東京オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえ、豊かで楽しい運動経験を通じた体力づくりなど体力・運動能力の向上や体育・スポーツ活動、芸術文化活動の活性化を図る様々な取組の充実
- 心身の健康保持増進と安全で衛生的な環境づくりを推進するための保健学習と保健指導の充実(薬物乱用防止教室・くすり教室)
- 食に関する指導計画に基づく教科横断的な指導の充実
- 防災教育の指導を通して危険予測・回避能力を高め、自ら安全な生活を営ませるための安全教育と安全管理の充実

- 家庭・地域社会・関係機関との連携や学校・園独自の「危険等発生時対処要領」の検証と改善による幼児・児童・生徒の安全確保の徹底と危機管理体制の強化

### (3) 社会の変化や現代的課題に対応する教育

グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となり、学校教育においても基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の育成等を重視する教育が求められています。そうした社会の要請に応える教育を地域や社会の多様な組織等と連携・協働することによって推進します。

- 環境問題やエネルギー問題、地域社会への関心を高め、持続可能な社会をめざす実践的な教育等の充実《自然や社会につながること（SDGs：持続可能な開発目標・ESD：持続可能な開発のための教育）を意識した教育の推進》
- 国際社会に生きる日本人としての自覚を育て、外国の人々とのコミュニケーション能力や異文化を理解・尊重する態度の育成を図るための多様な学習の充実によるグローバル人材の育成
- 外国語活動や英語教育の充実による義務教育終了時、英検3級（中学卒業程度）～5級（中学初級程度）以上の英語力の育成
- 社会的自立と社会参画意識（主権者教育）の基礎をはぐくむ教育の推進

### (4) Society5.0 社会に対応する情報教育(ICT 活用教育)

国の推進する「GIGAスクール構想」の実現と今後、到来するであろう新しい時代(Society5.0)の中で子どもたちがより豊かに生きていけるようICTを基盤とした先端技術等を有効活用する力を身に付けるための情報教育を推進します。

また、福知山市公立大学情報学部との連携により、本市立小中学校のICT環境整備とICT活用教育を両輪として今後も「福知山ならではの情報教育」を推進していきます。

- コンピュータ室でのICTを活用した教育から1人1台タブレット端末等を活用した、よりアクティブなICTを有効活用した教育への転換
- ICTの環境整備によって、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びの持続的実現
- 情報モラルの育成を基盤としたコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の活用力を高める指導の充実
- ロボット教材、プログラミングソフト等を使用したプログラミング教育による、体験を通じた学びの中での「プログラミング的思考・論理的思考」の育成
- デジタル教科書の積極的導入と小学校3・4年社会科副読本「のびゆく福知

山」のデジタル化及び有効活用

- 「ラーニング・イノベーションプロジェクト」を中心とした福知山公立大学情報学部の総合監修による専門的な知見を活かした新しい情報教育(ICT活用教育)の推進
- 福知山公立大学情報学部との連携による「ラーニングアナリティクス・学習分析」活用システム研究の推進

#### 4 特別支援教育の推進（思春期スクリーニング・個別の移行支援シート・特別支援教育コーディネーター）

教育と福祉の連携による切れ目のない児童生徒への支援の充実を目指すと共にすべての子どもが自己肯定感を持って生き生きと学べる環境をつくるため、特別支援の必要な幼児・児童・生徒の自立や社会参加、自己実現に向けた支援システム構築と主体的な活動や取組を支援します。また、実態に合った支援システムの改善を図り、より効果的かつ、持続可能な運営を目指します。

障害に対する理解と発達障害を含む障害のある幼児・児童・生徒への指導支援を推進します。（「インクルーシブ教育システム」と「合理的配慮」を意識した指導支援を目指します。）

ICTを有効活用し特別支援教育においても、より個別最適化した学びの実現に向けて取り組みます。

自己実現や社会参加を目指した就学前から就労に至るまでの一貫した特別支援教育を推進します。

- 思春期スクリーニングの活用

（市内全小学校5年生・市内中学校1年生対象）

- 個別の移行支援シートの改善と有効活用

（就学前→小学校用「うきうき・わくわく小学生」、小学校→中学校用「わくわく・のびのび中学生」、中学生→高校生用「のびのび・いきいき高校生」）

- 市特別支援教育コーディネーターの配置

- ICT環境整備等による、より個別最適化した特別支援教育の実現

#### 5 就学前教育と小学校の連携（認知能力・非認知能力の一体的な育成、保育所・幼稚園・認定こども園との連携）

幼児教育を充実させ、直接的かつ具体的な体験を通して感性や表現する力等を育み生きる力の基礎を養う教育を推進していきます。「認知能力」と特に近年注目されている「非認知能力」の一体的な育成に取り組みます。

読み、書き、計算など、テストやIQで測定できる力を学力＝「認知能力」というのに対して、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった測定できない個人の特性による能力は、「非認知能力」と呼ばれ

ており、将来大人になり社会に出た際、より幸せな人生を送るための大きな要因となるといわれています。

平成30年度から施行された保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の趣旨に基づき、3つの幼児教育機関(保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園)と小学校の間で共有されることになった「認知能力」と「非認知能力」である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を重視して就学前教育と小学校の連携を推進します。

【認知能力・非認知能力の育成・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協調性
- ④道徳性・規律意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

家庭の理解と協力を得ながら、保育所・幼稚園・認定こども園との連携を通して、認知能力を非認知能力と一体的に育むと共に、就学にむけ保幼小接続プログラムを有効に活用することによって「学びの基礎」を育てる教育の充実を図ります。

## 6 社会に開かれた教育課程の実現（地域とともにある学校づくり） 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置

小中一貫連携教育（シームレス学園構想）をより効果的に進め、「教育のまち ふくちやま」という本市の教育風土の上に学校・家庭・地域が互いにつながりを深め、「参画」「協働」「支援」をキーワードに学校を支える組織と仕組みをゆるやかに醸成し、社会総がかりでの教育を実現していきます。

学校運営に関して、教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、目標やビジョン、課題等を共有し、熟議※を重ねることにより一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組むため、学校運営協議会を設置し、社会総がかりでの教育の実現に向けた学校運営協議会(福知山式コミュニティ・スクール)の導入を進めます。それによって地域とともにある学校運営（社会に開かれた教育課程の実現）を実践し、子どもたちの健全育成に向けた家庭と学校の連

帯や地域の協力を基盤とした見守り等の児童生徒の安全・安心の確保、家庭と地域との連携によるキャリア教育等の新たな社会総がかりの教育の可能性を模索します。具体的には、学校評議員会等、学校の既存組織を再構築し、「学校運営協議会」への移行を目指します。

モデル対象学区での地域と学校の連携・協働体制の構築等の実践を全市に計画的に広げていきます。

◇ モデル対象地域 三和学区 夜久野学区 大江学区 川口学区 六人部学区

※ 熟議とは多くの当事者が「熟慮」と「議論」によって問題解決を目指す対話のこと。様々な立場の関係者が一つのテーブルにつくことで、新しいアイデアや考え方が生まれます。

## 7 子どもの貧困、虐待問題への対応

「福知山市の子どもは、福知山市で育て上げる。」本市のすべての子どもたちの将来を見据え、その将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、子ども政策室をはじめとする関係機関等との総合的な支援体制をさらに強化し、貧困や虐待子どもたちを守り、健やかに育成される環境の整備を進めます。

すべての子どもに夢や将来につながる確かな学力を身に付けさせる事業や取組

- 「学校」をプラットフォームとした子どもの貧困対策の推進
- 放課後児童クラブの充実（新たな学びの場としての可能性）
- 地域未来塾の継続拡大（福知山式コミュニティ・スクールの重要ツールとして）
- 学力等の向上を目的とする事業（豊かな体験活動）

## 8 大学との連携（福知山公立大学・京都工芸繊維大学）

就学前から義務教育9年間へと切れ目のない一貫・連携した教育（シームレス学園構想）のその先を思い描ける環境づくりに取り組みます。北近畿では数少ない4年制大学が本市に2校（福知山公立大学、京都工芸繊維大学福知山キャンパス）あるということ。さらに学校のICT環境整備が急速に進む中、福知山公立大学に情報学部が新設されたという利点を生かし、GIGAスクール構想、プログラミング教育をはじめ、キャリア教育や総合的な学習の時間、学習ボランティア派遣等々、学習内の枠組みの中で市の推進する「知の拠点」整備事業を効果的に活用し、大学との連携を展開していきます。特に福知山公立大学情報学部の監修、連携による、その「強み」である「ラーニングアナリティクス・学習分析」を加えた福知山ならではの最先端のICT活用教育の実現にむけて取り組みます。

将来の学園都市、仮称：ICT環境整備によるグランドシームレス学園構想にむけて、ICTを効果的に活用し教育期間を貫く教育理念と連携の構築：就学前教育、義務教育、高等教育、大学教育の更なる充実に向けた新たな連携の模索に着手します。

## 9 魅力ある学校・園・学園づくりと教職員の資質能力の向上

校・園長のリーダーシップの下、教職員や多様な人材の専門性を生かし、複雑な学校課題の解決に取り組む、「チーム学校」としての組織的な指導体制を整備するとともに各校の特色を生かし魅力ある学校・園・学園づくりに取り組みます。

また、これからの教職員に求められる資質能力(教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力、専門職としての高度な知識・技能、総合的な人間力)の育成にむけ、効果的な研修やシステムの構築に取り組みます。

- 幼児・児童・生徒の実態把握と分析による課題解決のための校内研修の充実
- 生活や学習に関する保育所・幼稚園と小学校、小学校と中学校、それぞれの接続期の指導の工夫
- 保幼小中合同の授業研究・研修会の実施による指導方法の連続性の確保と目標や指導計画の見直しと改善による中学校ブロックでの保幼小中一貫・連携教育「特色あるシームレス教育」の推進
- 中堅教職員を核とした若手教職員の人材育成のための勤務校研修の充実
- 教職員評価制度や学校評価制度を活用した指導力向上と開かれた学校づくり
- 今日的な教育課題について研究し、その成果を本市教育に反映させる研究指定校制度による人材育成
- 本市教育委員会、学校教育振興会、京都府教育委員会、京都府総合教育センター等が実施する研修会等の公的研修会への主体的な参加と研修成果の波及
- 従来の中学校区ごとの小中一貫・連携教育に対する意識の高揚、「中学校ブロック」共通の小中一貫・連携教育目標とめざす子ども像の確立
- 学校事務の効率化、標準化、効果的な事務処理体制の構築、学校事務職員の学校運営への参画意識向上にむけた「共同学校事務室」の設置

## 10 教職員の働き方改革

国をあげて「働き方改革」が進められている中、教職員の長時間勤務等が社会的に大きく取り上げられ、教員を志望する若者が減少し、人材の不足が深刻な課題となっています。安定的な学校運営のために、時間外勤務の縮減と業務負担軽減に取り組んでいきます。

持続可能な学校組織（教職離れによる慢性的な人員不足からの脱却）の構築と限られた時間の中で最大限のパフォーマンスを発揮できる、心身共に元気な教職員を目指し、超過勤務の削減と学校事務の効率化を促進することで「働き方改革」の更なる推進に取り組みます。

- 週1日の「教職員の早退勤デー」の実施
- 中学校の部活動休止日を週2日以上とする「ノ一部活デー」の実施

- 「校務支援システム」の服務管理による正確な在校時間の把握と長時間勤務教職員への指導・カウンセリング(医師・保健師)
- 電話応答の時間制限の実施 小学校 7:45~18:00 中学校 7:45~19:00
- 学校独自の業務改善の取組を推奨  
(教育課程の見直し、各種行事の精選、会議の効率化等)
- 教職員の働き方に対する意識改革を推進
- 市教育委員会事業の整理削減と不必要な動員の廃止
- 各中学校ブロックによる学校事務の共同実施と共同学校事務室研究の推進
- 給食費の公会計化による学校事務負担の軽減
- 統合型校務支援システム導入による学校事務の効率化

## 11 小中一貫教育校制度(施設一体型)

### 夜久野学園(夜久野小・中学校)

夜久野学園は、京都府北部初の施設一体型小中一貫教育校として、平成 25 年 4 月に開校しました。義務教育 9 年間の連続性と地域との連携を重視した教育活動を推進しています。平成 26 年度からは、教育課程特例校として英会話コミュニケーション科を創設し、9 年間のゆるやかなつながりの中で、英語をコミュニケーションツールとして活用し、人と関わり、自分の思いを伝えようとする子どもを育成しています。

### 三和学園(三和小・中学校)

三和学園は、夜久野学園に続く施設一体型小中一貫教育校として、平成 31 年 4 月に開校しました。施設一体型小中一貫教育校夜久野学園が積み上げてきた教育実践の成果と課題を踏まえながら、三和ならではの自然や文化などの地域資源を生かし、郷土愛をはぐくむとともに、「人」とのつながりや「もの」との出会いなど体験活動を通してコミュニケーション能力を高めていこうとしています。また、小学校における教科担任制(中学校教員が小学生の教科指導を行う)やチームティーチングを活用し、学力向上を図っています。

### 大江学園(大江小・中学校)

大江学園は、大江地域の小学校(美河、美鈴、有仁)を 1 つに統合し、大江中学校と一体となった本市 3 校目の施設一体型小中一貫教育校として、令和 3 年 4 月の開校を目指し、準備を進めているところです。キャリア教育を通して、児童生徒が自らの可能性を見出し、未来の姿をイメージし、ふるさとを愛し、発信し、発展させる人材となり、広く世界で活躍し、社会に貢献できる人材の育成を図ります。また、小学校における教科担任制や ICT 機器の活用により、個に応じたきめ細やかな指導を行うことで学力向上を図ります。

## 第5部 学校教育環境の整備（安心・安全な学校施設の長寿命化・快適な環境整備・ICT活用、読書活動充実のための環境整備）

学校施設は、児童生徒等の学習・生活の場として、また豊かな人間性を育むため、安全・安心で良好な教育環境として整備を進めることが重要です。また、地域コミュニティ形成の場として避難所等として、多様な人々の利用に配慮したバリアフリー化など、社会情勢の変化等を踏まえた環境整備を行っていきます。

### 1 学校施設長寿命化計画に基づく計画的な改修の実施

学校施設は、校舎や体育館といった主要な構造体の耐震化は完了しましたが、多くの学校施設で老朽化が進んでおり、安全面・機能面において計画的な対応が必要となっています。ついては、令和元年度に策定した学校施設長寿命化計画を基本とし老朽化した学校施設の計画的な改修・改築を進め、安全安心な施設環境を整備します。

### 2 快適な環境整備の推進（学校環境のユニバーサル化）

児童生徒、並びに教職員が一日の多くの時間を過ごし、また避難所ともなる学校では、バリアフリーにも配慮し、教室等の空調設備の設置やトイレの洋式化、照明器具のLED化等、より快適で良好な環境整備を計画的に実施します。

### 3 ICT活用、読書活動充実のための基盤整備

ICTを活用して教育の情報化を進めるため、学校のICT環境整備を推進します。このため、プログラミング教育をはじめとする教育推進にむけたICT機器、ネットワーク環境等の整備・充実によりあらゆる教科での活用を図ります。また、「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」に基づき、市立図書館や学校図書館と連携した読書活動を一層推進するために、環境の整備・充実に取り組みます。

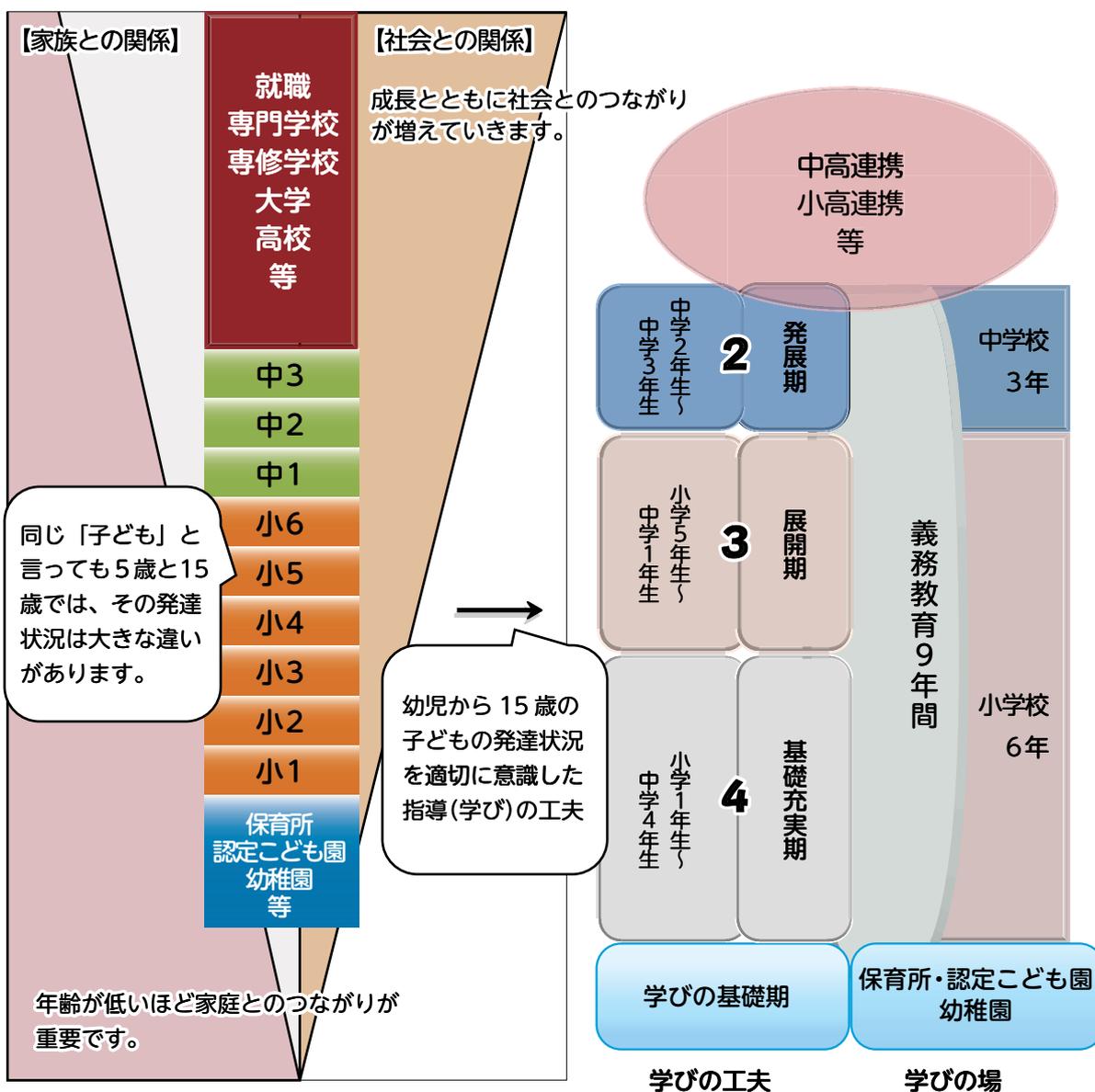
## シームレス学園構想の基盤とする考え

子どもの発達や子どもを取り巻く環境（家庭・地域社会・学校（園）等とのつながり）を意識し、

- 学びの連続性を大切にした教育の工夫
- 学校・教職員の連携強化による教育の工夫
- 社会総がかりで取り組む教育の工夫

によって、「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「健やかな体（体）」の調和のとれた育成を図り、生涯にわたる学習の基礎を培い、「生きる力」を備えた人間の育成をめざします。

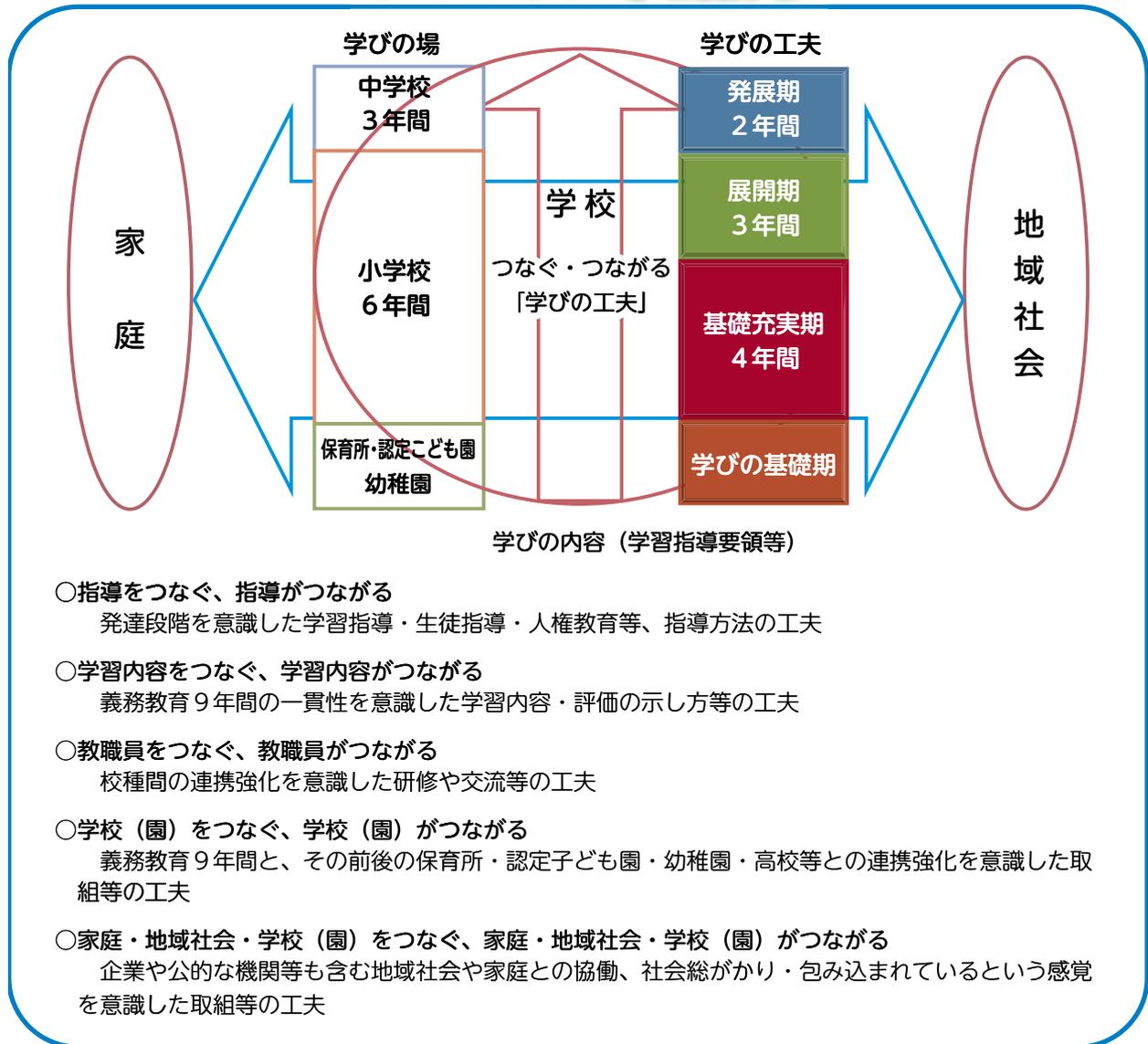
### 「子どもの発達と家庭・社会とのつつながり」と「学びの工夫」の一例



### 「一人一人の発達状況」と「社会総がかり」を意識した教育の工夫

まなびをつなぎ 夢をひろげる

## シームレス学園構想



「生きる力」を支える「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」  
「健やかな体（体）」の調和の取れた育成を図る

生涯にわたる学習の基礎となる  
「展望する力」、「つながる力」、「挑戦する力」の育成を図る

社会の変化に対応できる「生きる力」を備えた  
福知山市の「めざす子ども像が示す力」の育成を図る

## 【用語解説】

### ○ IoT（アイオーティー）

「Internet of Things」の略で(モノのインターネット) モノをインターネットにつなぐこと。モノがインターネット経由で通信すること。今までインターネットにつながっていなかったモノをつなぐこと。

### ○ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

学校運営協議会（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5）を設置している学校。教育委員会が、学校や地域の実情に応じて学校運営協議会を置く学校を指定する。学校運営協議会は、学校運営に関して教育委員会及び校長（園長）の権限の下、保護者及び地域住民の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や幼児、児童生徒の健全育成に取り組む。主な役割として、「教育課程の編成に関すること」「学校経営計画に関すること」「学校予算の執行に関すること」「その他、校長が必要と認めること」について協議会の承認を得るものとしている。（福知山市学校運営協議会規則）

### ○ インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み。障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。（障害者の権利に関する条約第24条）

### ○ 合理的配慮

障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの。（障害者の権利に関する条約第2条）

### ○ 21世紀型能力

「21世紀を生き抜く力を持った市民」としての日本人に求められる能力であり、「基礎力」「思考力」「実践力」から構成される。「生きる力」としての知・徳・体を構成する資質・能力から、教科・領域横断的に学習することが求められる能力を資質・能力として抽出し、これまで日本の学校教育が培ってきた資質・能力を踏まえつつ、それらを「基礎」「思考」「実践」の観点で再構成した日本型資質・能力の枠組み。思考力を中核とし、それを支える基礎力と、使い方を方向づける実践力の三層構造として、国立教育政策研究所がイメージ

を整理した。

- ・ 道具や身体を使う「基礎力」とは、言語や数量、情報などの記号や自らの身体を用いて、世界を理解し、表現する力（言語スキル、数量スキル、情報スキル）
- ・ 深く考える「思考力」とは、一人一人が自分の考えを持って他者と対話をし、考えを比較吟味して統合し、よりよい答えや知識を創り出す力、さらに次の問いを見付け、学び続ける力（問題解決・発見力、創造力、論理的・批判的思考力、メタ認知、適応的学習力）
- ・ 未来を創る「実践力」とは、生活や社会、環境の中に問題を見い出し、多様な他者との関係を築きながら答えを導き、自分の人生と社会を切り開いて、健やかで豊かな未来を創る力（自律的活動力：自己、人間関係形成能力：他者・集団、社会参画力（持続可能な未来づくりへの責任）：社会・命・自然）

#### ○ 小中一貫型小学校・中学校（仮称）

独立した小・中学校が、義務教育学校に準じた形で一貫した教育を施すことができる。学校の種類としては、通常の小学校と中学校にあたる。一般的な小中連携とは異なり、9年間の教育目標の明確化や当該教育目標に則した教科等ごとの9年間一貫した系統的な教育課程の編成・実施を要件とすることで、義務教育学校同様、設置者の判断により、小・中学校の学習指導要領を準用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設することができる。一貫教育の軸となる新教科創設、指導事項の学年・学校段階間の入れ替えや移行が可能となる。修業年限は、小・中学校と同じで、校長や教職員組織は学校ごとに置く。

#### ○ Society 5.0

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。Society5.0で実現する社会は、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことでこれらの課題や困難を克服します。

また、人工知能(AI)により、必要な情報が必要な時に提供されるようになりロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革(イノベーション)を通じてこれまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、1人1人が快適で活躍できる社会となる。

#### ○ 新しい生活様式

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議からの提言による感染防止の3つの基本である ①身体的距離の確保 ②マスクの着用 ③手洗いの実施や「3密（密集、密接、密閉）を避ける等を取り入れたコロナ禍における新しい日常生活のこと。





京都府 福知山市  
福知山市教育委員会

〒620-8051 京都府福知山市字内記 13 番地の 1  
教育委員会事務局

FAX 0773-24-4880

教育総務課 TEL 0773-24-7061

学校教育課 TEL 0773-24-7062

生涯学習課 TEL 0773-24-7064